郷の集い

発行
新郷小学校
愛護会文芸部
編集責任者
吉江　源右エ門
印刷
久野印刷㈱

御挨拶

学校長　林　五十二

そよ風が田の面をよぎる頃となりました。

このたび、ご縁があって新郷小学校へ容せていただきました。もとよりその器ではありませんが、職員の協力と愛護会の皆さんのご支援にすがって精一ぱい児童園児の健全育成に邁進する覚悟でございます。

転任に際して、上司や先輩から、

「新郷校は規模は小さいが校下はよくまとまっており、昔から、とても教育熱心な所だから安心して学校経営ができる。充分に自分の力を発揮してみよ。」

と、一様に励まされました自宅からの通勤も便利だしそんなに評判のよい学校なら働き甲斐もある。

わたしは夢と感謝の気持ちが一ぱいにあふれました。

これまで芦原青年の家に居りましたので、芦原町には深いご縁がありましたが本校の校舎の中に入るのは初めてでした。

校門をくぐって先づ目に入ったのは、よく手入れされている校庭の芝生でした。中に入ると床板がピカピカに光っているのに目を見張りました。そして働くことをいとわない子が、育てられているのだなと、つくづく感じさせられました。

一巡しますと各所に花木が育てられています。動物や植物を大切に育てることは、豊かな情操を育て、ひいては人間尊重の精神を養う基礎にも通ずるもので、実にうれしい気がしました狭いながらも、教育備品が充実しているのにも驚かされました。大規模校でも、こんなに教具が整えられている学校はあまり見かけません。学級の児童数が少なくて教師の手が充分にいき届き、その上、充実しているこの教具を活用して指導されるとなれば、まさに最高の教育環境です。ここに育てられる子ども達は、ほんとうに幸せだと言わなければなりません。

今や社会は経済的にも政治的にも激動極まりない状況でありますが、こと教育に関しては、原点に立ちかえって、真の教育とは何かを見直す時機ではないかと思います。学歴偏重の時代はもうすぐ過ぎ去ろうとしています。知育、徳育、体育の三本の柱をしっかり踏えた教育がなされなければなりません。未来を担う子ども達を健全に育てるためには学校と家庭とそして地域社会との呼吸がぴったりと合っていなければなりません。愛護会の皆さんの絶大なご協力と旺勢なご活躍を切望してやみません。

えんそく

一年　共同作文

ばすにのって　いきました
ばすのおねえさんが、なぞなぞやおはなしを、してくださいました。
ばすのまどから　さくらのはなや　こいのぼりが　みえました。
ばすからおりて　かいだんをのぼりました。
かいだんのしたで　あしをくねってしまいました。
こうえんで　しゃしんをとりました。
はちにんで　とりました。
はしを　わたりました。
はしのしたに　じどうしゃが　はしっているのが　みえました。
とても　たのしかったです

ごあいさつ

愛護会会長　小島英二

初夏の候と相成り愛護会会員の皆様には、ご健勝にてお過ごしのことと思います。第四五回郷のつどい発行を祝し、一言ご挨拶申し上げます。

この度び、私が、この伝統ある愛護会のお世話をいたすことになりました。皆様にはなにかとお手数をおかけすることと思いますが、暖かいご指導とご協力をたまわり本会が健全な児童の育成に活躍されますよう一層のご努力をお願いいたします。

本校のPTAは発足以来熱心な先輩各位のご努力により着実な活動が行われ教育振興に多大の寄与がなされ、皆様の誇りであることをお喜び申し上げます。

本年度も多くの年中行事が行なわれますが万障お繰合せの上参加下さいますようお願い申し上げます。

最後に先生方を始め役員各位の御協力をお願いいたしまして私の挨拶といたします。

ごあいさつ

愛護会副会長　藤田美代子

この度伝統に輝く新郷小学校の副会長に就任することになりましたが、浅学非才の身であり到底この任ではございませんが、会員皆様がたの声をもとに、暖かいご指導とご協力を心よりお願い申しあげます。

昨年この学校に、立派な校歌ができましたことは誠に喜ばしいかぎりです。それは、PTA会員並びに校下の皆様そして先生方のご協力のおかげです。

「芦原の野辺に人びとむつみ希望の光みちわたる、ここにまことを求めて互に励み伸びゆくわれら、あゝわれらの新郷校」ほんとうに立派な校歌です。今でもあの時、子供が胸をはって歌ったことが思い出して、胸が高なるようです。

親として子供のしあわせを願わない者は、誰ひとりいないと思います。

子供の教育は、学校へ何でも任せるのではなく、家庭においても教育をし、責任をもたなければなりません。

子供のしつけや、道徳心の芽生え、強い意志力を養うように、そして子供が親を慕うようにし又社会の一員として、暖かく育てることが大切です。

「竹田の川辺村里さかえあらたな生命もえあがるここに実りめざして力たくわえ羽ばたくわれらあゝわれらの新郷校」

PTAの会員の皆さんこの校歌を心にきざみながらいつまでも手をつなぎ、子供達を立派に育てようではありませんか。

くらしのたより

紺谷博文

「くらしのたより」は、学校生活と社会生活の中で、児童の健康と安全を守るために注意していただきたい事項をお知らせするという意味で発行しております。

今すこし内容にふれますなら、現在の児童をとりまく環境は極度に不安全なもので満されております。そこで、環境の流れを止めて歴史の歯車を逆転し安全な社会をつくり出す事などが無理ならば、時流に乗って、その中で安全な社会づくり、望ましい児童づくりをめざさねばならないと思うのです。この願いの一助にと思い、いろいろの情報をお伝えさせていただいております。

このたよりの中に、やがては、親としての想いなども加えられれば、望ましいたよりになってくれると考えております。

今日の子は、きのうの子ではありません。

みんなの力で、その和の中に温かい心を持って迎えてやりましょう。そして、望ましい心と行動力を持った子を一人でも多く育てようではありませんか。くらしのたよりがこのために、その一端になれば幸いです。

おわりになりましたが、御意見などありましたら生活係まで御寄せ下さい。では、次号で会いましょう。

子供

小島昭夫

この間「ラジオ」で読書のことで子供との会話を聞いた。

「読書も大切だが」と前置きして、勉強の方が大切だそれは、しっかり勉強しないと、良い中学校や高校へ入れないので、お金の沢山もらえる会社などへ入る事が出来ないと困るから」と答えていた。

「本当は良く遊び、丈夫な体を作って、勉強しても、くたばらない体力を作らなければならないのだが、そんなことしていると勉強がおくれてしまうから」とも云っていた。子供ながら色々考えているものだ。

大人の世界も中々の様に想う。農業だけでは、とうていやって行けず、子供と接する機会は少なくなるばかり。「行動に責任を持ってほしい。我まんすることをおぼえてほしい。大人の働いている汗を見てほしい。人へのいたわりを持ってほしい。病気しないで元気にくらしてほしい。」なんて、親の側の欲ばかりで子供は大変めいわくだろう。

「本当は遊びたいけど仕方のない事だ」とあきらめている。

なにもしてやれないので、「バンバイヤ」や「天才バカボン」「摩太郎が来る」などばかり読んでるので、「のらくろ」と「ぼうけんだん吉」を買ってやったら、大変よろこんでくれてうれしかった。

たのまれて久し振りに文を書くことのむずかしさを、味わされました。

人間にくずはない

如意弘一

子どもたちにとって学校生活は、日常生活の一部であるにすぎません。家庭でや、学校生活をぬかりなくやっているか否か、などのことだけで単純に、はかれるものではありません。学校では自分の持つ能力を十分発揮できない子もいれば、ほんとうは心の優しい性格であるのに、表現のまずさから逆に受け取られてしまう子もいるわけです。

人間には「くずがない」といわれていますが、広い視野にたって、親の利己的な考えをすてて、人格の完成に一歩前進するよう努力しようではありませんか。

あることです。人間の価値は、学校の成績のよしあし

ここにも生きた道徳が

教頭　鹿野　巧

家内の知人とその孫娘が家へ来たので、畠から取って来たばかりの花をあげた。知人は大変喜んで早速仏様へお供えしようと喜んで帰ろうとしたところ、孫娘がこれは私が貰ったのだから学校へ持って行くんだとだだをこねはじめた。

私はそのほほえましい様子を見ていてもう一度畠へ行くことにした。しばらくして畠から花を切って帰ると知人は恐縮しながら花を持って帰って行った。

私はこの一寸したことの中に、学校や教室を美しくしようとする一年生の女の子の気持を伸ばしてやりたいと思うと共に、仏様を大切にしようとする知人の心にうたれた。

近頃は以前と比べてこのような気持はだんだんとうすらいできたように思う。私はこのちょっとしたことの中に生きた道徳があることをしみじみと感じた。

雑感

斉藤　修二

今日の激しく揺れ動く社会の中で、「情報化社会」といわれる一面があります。

そしてこの情報は、私達の好むと好まざるとにかかわらず、色々な媒体を通して目に、耳に入ってきます。

こうして多くの情報が氾濫し、その中に私達は巻き込まれ我が身を失うことさえ起りうる可能性があります。青少年の非行化の原因のほとんどが、情報を適格に判断しないため悲劇がおきています。このような中にあって、児童、幼稚園児などを持つ私達親には、非常に大きな責任と義務があります。それは悪影響を及ぼす情報を、ただ見せない読ませない、聞かせないというような無い無いづくしではなく、何故これはいけないのか、またどのように理解すれば良いのかを話し合い、納得させることが大切です。

本当に最近の情報の洪水には、うんざりすることがしばしばあります。例えば繰り返されるテレビのコマーシャルなどは、その最たるものでしょう。これらから全く耳をふさいだり、目をつむってしまうことをせず、節度ある態度で、努めて家族みんなで一緒に、見たり、聞いたり、また続むように心がけそのあとで、「あそこが面白かった」「あのところが悪い」とかの判断をつけさせて、話し合うことが親の務めでないかと思うのです。

学校における、基礎的な知識教育とそれを通じてなされる集団生活の訓練が教師の役割なら、私達、親と家庭に課せられた役割は、生活態度に規律と訓練を課する、つまり子供のしつけであろうと思います。そして、そのしつけとは、さまざまの情報とのかかわりあいで、他人にまかせることなく、親としての立場と責任への強い自覚を持って、受け身になることなく、積極的にその中に入っていくことだと考えています。

私の修学旅行

6年　東出　友

私は、修学旅行に行っていちばん楽しかったところは、天理会館でみんなと、トランプやゲームをして遊んだことが　いちばん楽しいでした。

私は、旅館で、たいへんな失敗をした。それは、男の先生に、「スリッパのならべ方が悪い」とおこられたことだ。

女の子がやらなくてはならないことが、先生に注意されたのだから　とてもはずかしかった。そんなことを、何べんも先生に言われた。だから、こんどからは「スリッパは、きちんとならべておこう。」と思いました。

次は、バスの中でのことです。ガイドさんと、歌を歌ったり、ゲームをしたりとても楽しかった。ガイドさんは、一日中しゃべりどうしだったから、「とても　つかれただろうな。」と思いました。

私たちは、ガイドさんをこまらせてばかりいた。ガイドさんの　言うことを聞かないで　自分たちの好きなことをしたり、「わーわー」さわいでばかりいました。

「これからは、めいわくはかけないようにしよう。」と、思いました。

ガイドさんとバスの中で楽しくできて、とても　うれしかった。

旅行中困ったことは、小使いがなくなってしまったことだ。おみやげをたくさん買って　三千円の小使いを全部なくし、いいと思うのをかたっぱしから買っていくので、すぐお金をなくしました。なくなってしまってから「あっ。」しまった。」と思った。でも、しかたがなかったのであきらめた。

先生と、ひとみちゃんたち仲間から千円もらったけれど、もらった千円は、使わなかった。理由は、自分だけ三千円使ってしまって、まだ、使うなんて　みんなに　悪かったし、きまった小使い以上　使う気はしなかった。

私は、いちばん　びっくりしたのは　大仏だった。大きいとは知っていたけれど、まさか、あんなに大きいとは、おもわなかった。私は、「あんな、大きいものをよく作られたな」と、つくづく思った。

私が、もう一度　見たいのは、奈良公園のしかです頭をふって、くるのがとてもかわいかったから、せんべいを、二、三まいあげたけれど、もっと　たくさん食べさせてあげたかった。

修学旅行中、困ったことやおもしろかったこと、いろいろあったけれど残念だったのは、不思議な水が飲めなかったことでした。

私は、修学旅行を　参考として、お金の使い方、ぎようぎのし方、ほかに　いろいろなことを考えて行動しよう　と　思いました。

雨にもあったけれど、とても楽しい二日間でした。

つつじ

五年　岡田美

あれは、二年前の春のことです。おばあちゃんが、金津のおねえさんの、奈良の大学の進学いわいに、つつじの木をさし木しました前庭いっぱい、五十本ぐらいさしたのです。

あれから二年、その間もいろんな苦労があったのです。夏は長いホースで水やり、ひりょうやり、草とりでも、それも　おばあちゃんが、もんくひとつ言わずに、全部やってくれましたもちろん、わたしがやると「ありがとう、ありがとう。」と言って、よろこんでくれました。

そんな中で、今年の春、ついに咲いたのです。おばあちゃんも　わたしも、とても喜びました。おばあちゃんは、さっそく草取りです。

花をよく見たら、ふつうのもも色の花とはちがっているものも、たくさんありました。赤い花、八重ざきの花、大りんの花、花びらがぎざぎざになっている花つつじ一本でも、こんなにちがっているんだな、と思いました。

わたしは、これからも、おばあちゃんといっしょにつつじ一本一本、大事に育てていこうと思います。

もしも　おかあさんが　いなかったら

四年　大久保

もしも、おかあさんがいなかったら、毎日のおかずは、食べられないだろう。

その外に、おかあさんの仕事は　まだまだたくさんある。ぼくたちが、毎日よごしてくるズボン、ジャンバーなど、おこりながらせんたくしてくれる。ズボンをやぶって帰ると、つぎをしてくれるし、へやであばれて、しょうじをやぶるときれいな形に切って、のりでくっつけてくれる。

茶わんもあらってくれるおかあさんのいない人のことを考えると、かわいそうです。ずっと前のことだけれど、おかあさんのたん生日に、茶わんをあらってあげたことがあります。つめたかったので、手がまっかになりました。赤くなった手を見て、おかあさんは、「ありがとう。」と言いました。そのとき、ぼくは、毎日つめたいのに大変だなあと思いました。

でも今は、湯わかし器をつけたので、あたたかいお湯がでるようになりましたおかあさんは　もうつめたい思いをしなくても　すみます。もっとほかに、そうじなども、ぼくたちが、手伝えば少しは楽になると思います。すれば、よろこんでもらえるけれど、遊ぶ時間がなくなるので、しません。もし　おかあさんがいなかったら、言われなくても、しなければならないと思います。ぼくには、おかあさんがいるから　幸福です。

風

六年　小島一

ヒューヒュー吹く風
何でも運ぶ　風
でも　私達を乗せてくれない
風に乗って　空を飛んでみたいのに
風は　種子を運ぶ
運ばれた種子が
きれいな花に変わる
そこら一面　花だらけになる
その時　言おう
風さん　ありがとうって

ボールなげ

二年　山崎さ

きょう、三時間めのたいいくの時、ボールなげをしました。

ゆるくなげると、ちかいところにおちました。わたしは、とおくとばしたいとおもいました。それで、こんどは、力いっぱいなげたら、白線のところよりむこうにとんで行きました。

先生が、

「あの、こっきのあがるところをめがけてやるのよ。」

と　おしえてくれました。

わたしは、その通りにしてみたら、さっきよりむこうにとびました。

さいとうこうちゃんや、あきらちゃんのボールが、あんまりとおくとぶので、びっくりしました。

けれど、わたしもだんだんとおくとぶようになりました。

だいぶんうまくなったので、うれしくなりました。

かおるちゃんに、まけたけど、もっともっと、がんばろうと　おもいます。

母親学級　年間計画

月	内容
五	開講式　講話　奉仕活動
六	授業参観　学級懇談
七	研修旅行
九	民謡
十一	授業参観　クラブ
十二	（運動能力測定）
一	授業参観　講話
二	学級懇談
三	学習発表会参加
三	修了式　講話　反省会

学校図書だより

親子で読書を!!

今年も新しい本が、たくさん入りました。(一部紹介)

○ジェーン・エアー
○赤いろうそくと人魚
○人魚がかくれたさくら貝
○愛の一家

その他　いろいろあります。

夏休みに一緒に読みましょう。

春

三年　白崎さ

春になったら花がさく
きれいな花がさく
道をあるいていると
いいにおいがしてくる
いいにおいがすると
気持ちがいい
わたしは
花のそばへ行って
においをかいだ
とても気持ちがいい
花っていいなあ
わたしが花だったらなあ
わたしは
どんな花やろうなあ